



文庫のホームズ

tontokaimo39



これは、創元推理文庫に付いていた帯です。

シャーロック・ホームズの本は世界のベストセラー第二位、（一位は聖書）、それだけに原典だけでなく、関連本も多種多彩、なかでもホームズに関連したパロディ、パスティーシュの類は数知れずで、もうこれだけで一つの世界を作り上げています。

と、いうことで、ここではその中で我が国の文庫として出ているものを一部紹介したいと思うのですが、私に本の内容を語るだけの文章力があるわけではありません、要するにカバーの展示会のようなものなのですが、出来る限りふりいものを選びました、「ふーんこんなカバーもあったのだな」と眺めていただければ幸いです。

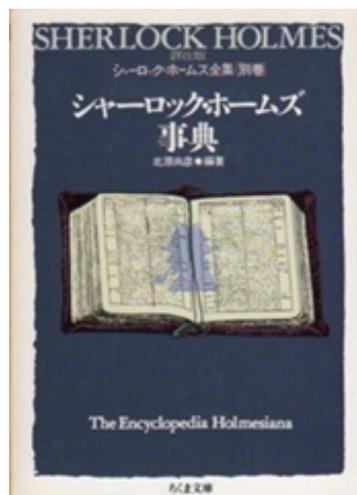
私は、シャーロキアンではありませんしホームズ本の蒐集家でもありません、ただ文庫本が大好きで、かなりの量を集めました。今本棚で埃をかぶっているその文庫本たちを見て、「そうだなネットにでも紹介して、もう一度埃をはらってやろう」と思いついたのがこれを書くきっかけなのですが、その中で一つのジャンルとして取り上げられそうなもの、それがホームズの文庫本というわけで、特別ホームズに詳しいのではないのです、そのため見当違いや誤りも多いと思いますが、そのあたりはご容赦をお願いします。

「彼は恐妻家だな」

「どうして分かるんだい」

「初歩だよワトスン君、文庫本しか買わせてもらえないんだろう、それに始めから言い逃れを言ってるんだ」（影の声）

なお作者等実在の方についての敬称、敬語は省略させていただきました。



ちくま文庫「シャーロック・ホームズ事典」（北原尚彦 全集別巻）と「シャーロック・ホームズ全集」（ベアリング・グールド註 小池滋訳 全10巻）

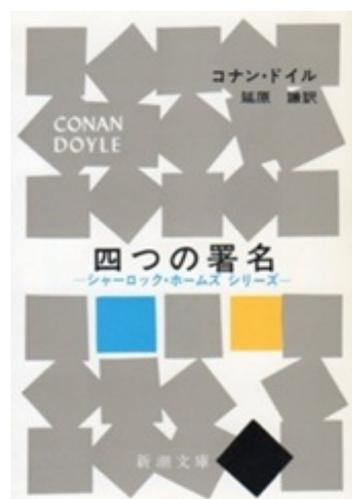
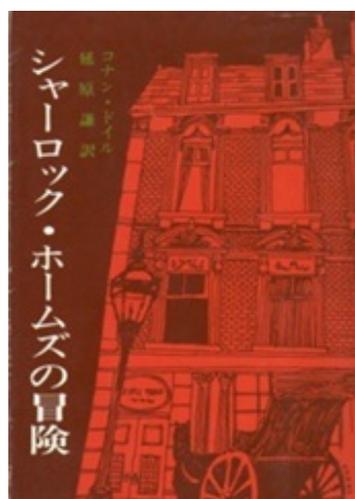
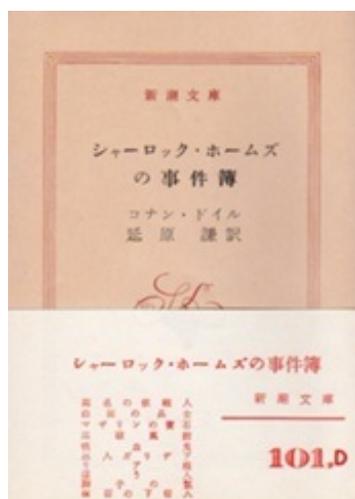
最初は新潮文庫から



なぜトップが新潮文庫か？ホームズの全てを最初に翻訳したのが延原謙、その全てを出してホームズの普及に大きな役割を果たしたのが新潮社の新潮文庫なのです。

ホームズの原書は、長編4冊、短編集5冊
「緋色の研究」「四つの署名」「バスカビル家の犬」「恐怖の谷」
「SHの冒険」「SHの思い出」「SHの帰還」「SH最後の事件」「SHの事件簿」

ところが新潮文庫には「SHの叡智」というのがあります。これは、上記短編集の中に、ページ数が多くなり過ぎるとい理由から省かれたものがあって、これを収録したものです。したがって、新潮文庫では、短編の全てを読むには、6冊が必要ということになります。（これは戦後の紙不足から、現在もこの状態のままなのか、改正されているのかは、未確認です。）



カバーは度々変わっています、左はカバーの無い頃のものの

ところで、上に述べた題名は新潮文庫のものですが、出版社、翻訳者によって微妙に違ってきますし、変則的なものもあるので注意が必要です、「S・Hの叡智」については上で述べましたが、例えばハヤカワ文庫では「帰還」が「復活」になっています、ところが「復活」と言うのが新潮文庫にもあるのですがこの「復活」はドイルの作ではなくてJ・シモンズの書いたパロディなのです。

（「緋色の研究」は「緋色の習作」だなんて過去にもめていたようだけど、どうなったのだろう？）



現在の文庫出版を定着させたのが岩波書店の岩波文庫。発刊当時から古典と名作、この伝統は現在も変わらず、硬いイメージの文庫ですが、シャーロック・ホームズはこの中にも収められています。ミステリーであっても、古典として省くことは出来ないということでしょうか。

「SHの冒険」（訳 菊池武一 初版1962年）「SHの回想」（訳 同 初版1963年）「SHの帰還」（訳 同 初版1963年）いずれも戦前の出版ですが、それぞれ1936、1937、1938に改版されています。（「冒険」6篇、「回想」「帰還」は5編の選抜収録）

ところで図は、現在では古書店でしか見られない姿ですが、表紙の上にはパラフィン紙、その上に帯（逆だったか？）、これが文庫本の元の姿です。（かつては帯のことを腰巻と...もう死語でしょうか、なお図では縮尺のためにわかりませんが、戦前の文庫は現在のそれより縦が少し長かったのです。）



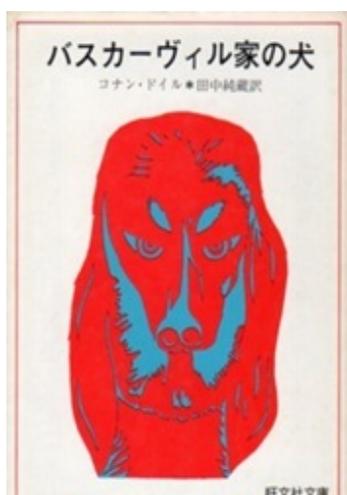
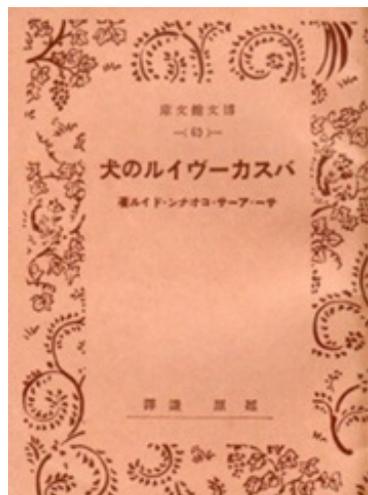
左は戦前のもの、中と右は戦後の改版

ホームズは明治にはもう我が国に紹介されていたそうですが、文庫の第一号は昭和十一年の岩波版の「冒険」、岩波の三冊以外には新潮文庫の「シャーロックホームズ」（七編選抜）博文館文庫に「バスカビル家の犬」がありました、ともに延原謙の訳で、新潮が昭和十二年、博文館が十四年の発行です。

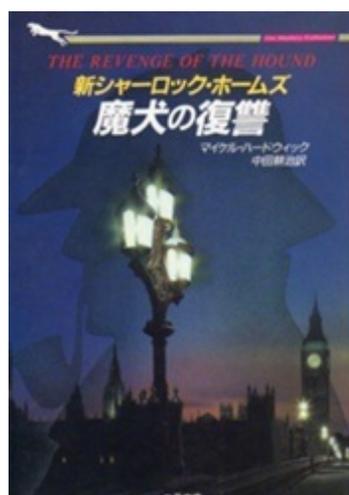
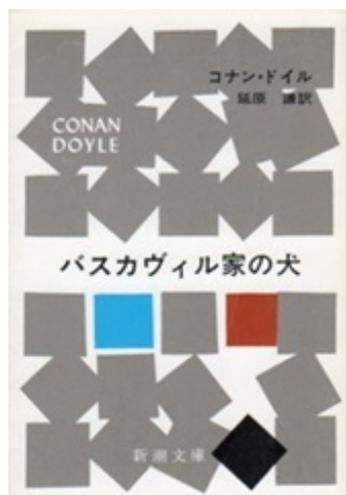
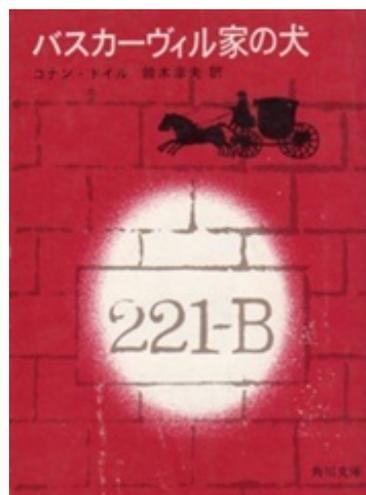
バスカヴィル家の犬



バスカヴィル家に伝わる魔犬の伝説、人煙まれな、荒涼とした沼沢地に再びその陰が...
ホームズもの長編4編のうち、最も人気が高く、面白いのが「バスカヴィル家の犬」です。ここでは長編の代表としてこれを数冊ならべてみました。



今は無き博文館文庫（戦前版 訳は延原謙）と旺文社文庫



後は角川と新潮。最後は「バスカヴィル家の犬」にちなんだパスティーシュ「新SH魔犬の復讐」（マイケル・ハードヴィック 訳 中田耕治 二見文庫）、魔犬ロンドンに現る...! ?

エドウィン・ドルードの失踪



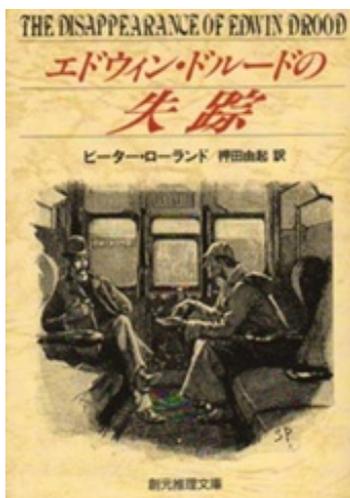
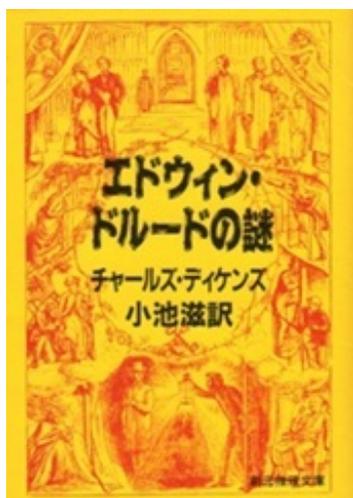
ここからは原典と別れて、パロディ・パステューシュの樹海へ（笑）。

「エドウィン・ドルードの謎」これは文豪ディケンズが晩年に書いたミステリーですが、彼の死によって未完に終わったもの。

「嵐のクリスマス・イブの夜、常に反目していたエドウィンとネヴィルは、仲直りのために夕食を共にするが、翌朝エドウィンが行方不明に、彼の懐中時計が増水した川の堤で発見される...」

「エドウィン・ドルードの失踪」（ピーター・ローランド 訳 押田由貴 創元推理文庫）は、この謎にホームズが挑む、パロディ・パステューシュの中でも異色の作品などで最初にとりあげました。

もちろんこれは単独で読んでもいいように書かれているのですが、ディケンズのそれを読んでおくと面白さは倍増です。「エドウィン・ドルードの謎」（チャールズ・ディケンズ 訳 小池滋 創元推理文庫）



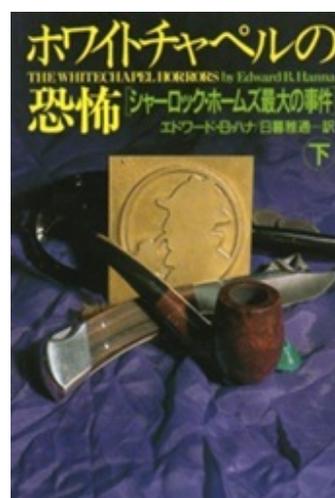
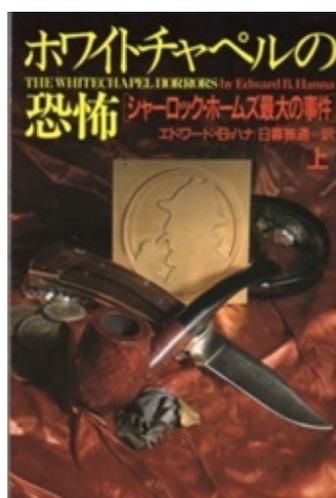
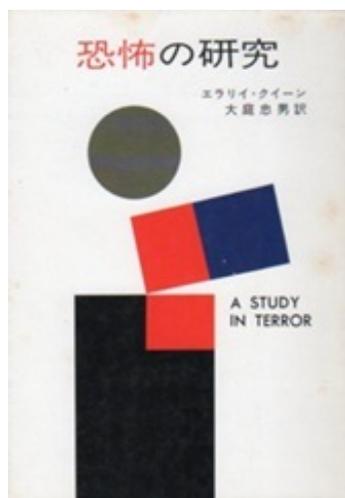
切り裂きジャック



実際の事件で未解決のもの...すぐ思い浮かぶのは切り裂きジャック。霧深いロンドンの夜、娼婦が次々と腹部を切り裂かれて惨殺される...

この事件については、様々なミステリー作家が挑戦し、様々な犯人を示して、これだけでも文庫本の一つのジャンルになりそうなのですが、これはロンドンで起こった、しかもホームズが活躍したのと同時代の事件ですから、ホームズが見逃すわけはありません（笑い）

この事件に対するホームズの活躍にも長編短編といろいろとあるのですが、代表と言えるのが「恐怖の研究」（エラリー・クイーン 訳 大庭忠男 ハヤカワミステリー文庫）もしくは「ホワイトチャペルの恐怖」（エドワード・B・ハナ 訳 日暮雅通 扶桑社ミステリー）これは、副題がシャーロック・ホームズ最大の事件、ワトスン博士が50年間は発表するべからずとして書き残したものです。

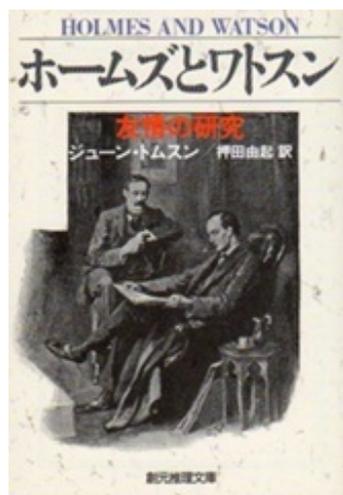
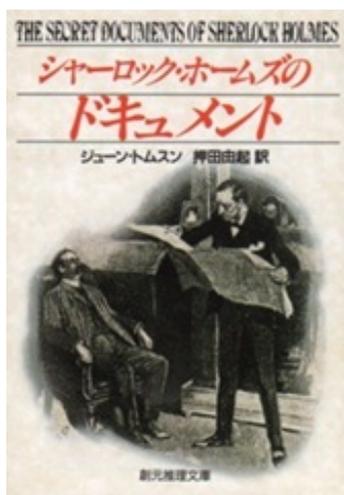
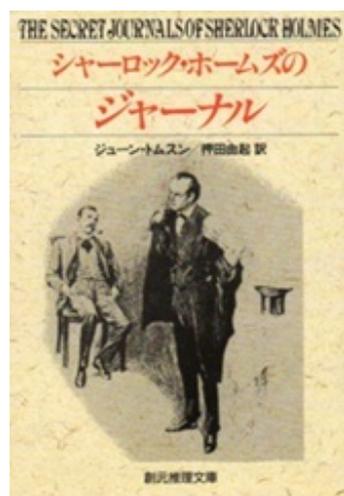
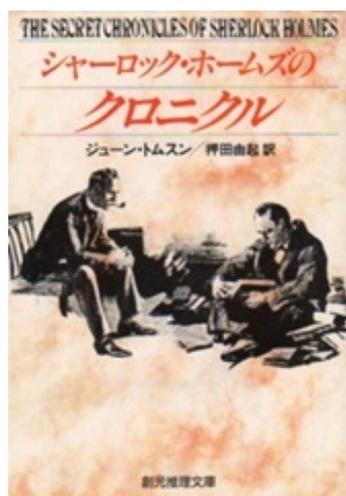
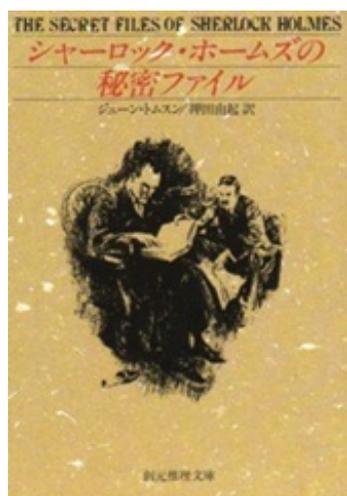


これは上下の二分冊



ホームズは全て読んだ、もっと読みたい、これをかなえてくれるのがパロディ・パステイシューです。ただし、これらの全てが希望にかなうものではないので注意が必要です。パロディとパステイシューの違いは厳密にはよく分かりませんが、パロディの方は、何らかの遊びの要素が入るもの、パステイシューはとにかく本物に似せて書かれたものと私は捉えています。

もっと読みたいに応えてくれるのが、ジューン・トムソンのホームズシリーズ、これは女流作家によるパステイシュー、「語られざる事件」（原典に事件名のみ出ているもの）「傘を取りに戻って消息を絶ったフィリモア氏の事件」などを読むことができます。（笑い）



ジューン・トムスン 訳 押田由貴 創元推理文庫 ただし「ホームズとワトスン」は二人の関係について、シャーロキアンの立場から述べたものです。

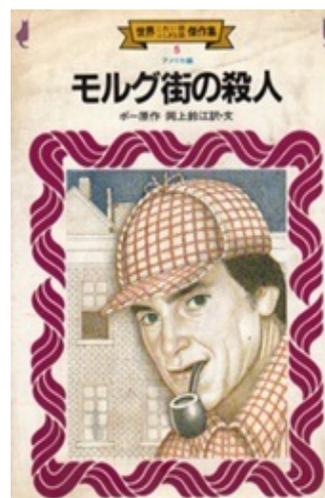
かわいい帽子おかしな帽子



名探偵といえばホームズ、ホームズといえばあの鹿撃帽（ディアストーカー）。今ではもうホームズを通り越して、名探偵といえば鹿撃帽、鹿撃帽といえば名探偵。ところが原典のホームズがこれを被っていたことは一度も無いのだそうです、ではどうして？これはシドニー・パシェットという挿絵画家の仕業とか。（耳を覆うことのできる帽子という記述が一箇所だけあるのですが、これは鹿撃帽とは別物らしい。）



ちょっとかわいいホームズたち、左は少女探偵ナンシー（フォア文庫 金の星社）、これは大人が読んでもけっこう面白い、創元推理文庫で読めます。



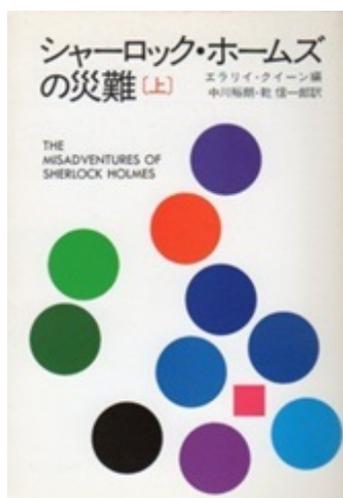
右側を見てください、名探偵の必須アイテムとはいうものの、ホームズの先輩デュパンまでが...（笑い）これは文庫ではありません、単行本の児童書なのですがあまりにもおかしいので紹介しました。



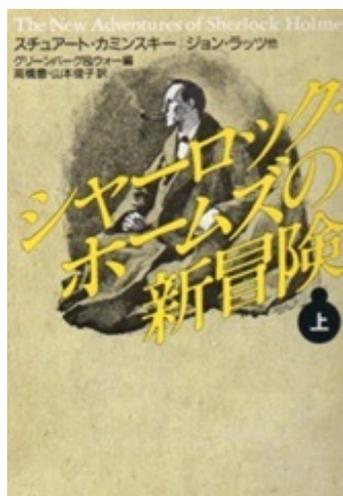
ホームズに関係するパロディ・パステイッシュの数は10000点を超えているだろうとのこと、これはもう凄いの一言です。（1974年当時で6221編とのこと、それ以降はわからないのですが。）

上は、エラリー・クイーンによるアンソロジー。ドイルの息子からクレームがついて絶版になったといういわくつきのものですが、よく知られた名前では、アガサ・クリスティ、O・ヘンリー、マーク・トウェインなどの作品が、またエラリー・クイーン自身のものも載っています。

下はドイル生誕100年を記念して、当時の現役作家が書き下ろしたもので、コンピュータが出てきて笑わせませす。なおアンソロジーというのは、出版社や題名が違っていても、同じ作品が収録されていることも多いのですが、ここの4冊に限れば重複することはありません。



「シャーロック・ホームズの災難」（訳 中川裕朗・乾信一郎 ハヤカワミステリー文庫）



「シャーロック・ホームズの新冒険」（編 グリーンバーク&ウォー 訳上 高橋豊・山本俊子 下

長いトンネルをぬけると



「国境の長いトンネルをぬけると...」ワトスンとホームズが着いたのは遊園地の雪国、宇野警部と夕子が着いたのは善人村。（笑い）

ここでのワトスンとホームズも、宇野警部と夕子も赤川次郎の作品です。（前者はホームズパロディの「絶筆」後者は幽霊シリーズの「善人村の村祭り」）

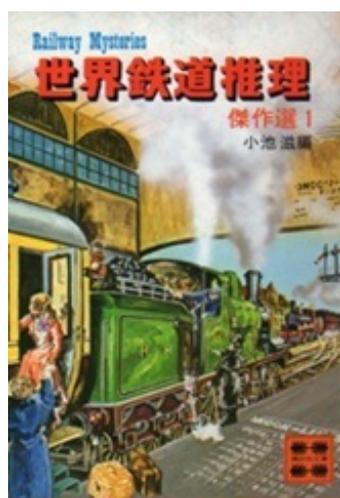
赤川次郎の「幽霊列車」は乗客を消しますが、コナン・ドイルは列車そのものを消してしまいます、ただし残念ながら、これはホームズものでは無いのですが...ドイルはホームズ以外にも歴史物、怪奇物からSFまで書いていますが、ホームズの出ないミステリーは珍しいのでは...

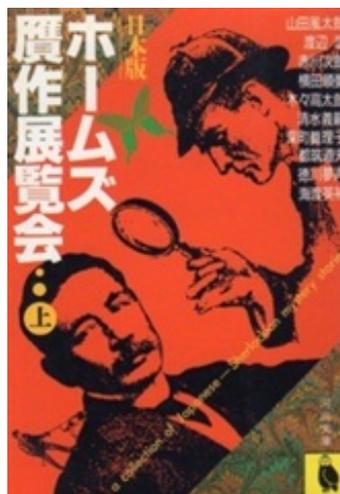
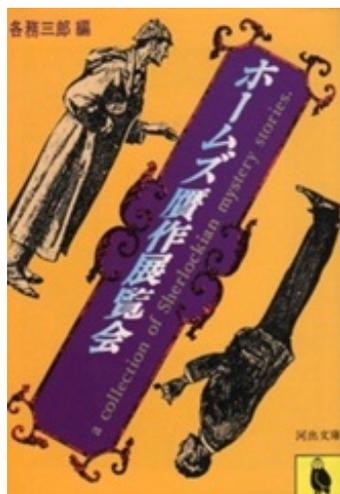
「世界鉄道推理傑作選」（編 小池滋 講談社文庫）ドイルが列車を消すのは2の方「消えた臨時列車」ですが、これにはホームズのパロディ、ソーラー・ポンズの活躍する「消えた機関車の冒険」も収録されています。

1の方とはいうと、夕子の先輩、ドーラ・マールが登場します、作品の名は「ステッキのキズは？」。

ドーラはミステリーに登場する女性探偵としては、トップではないのですがそれに近い存在なのです。（後に結婚するので、やはり大学生程度の年齢でしょう。）

さて私はシャーロキアンならぬユーゴジアン（と、いうことでここでの私の一冊目と連結...本当はこのページ、ディアトーカーを被った夕子を出したかっただけ。）「おまえ馬鹿か...」





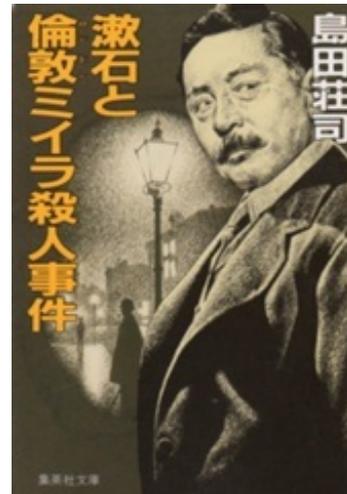
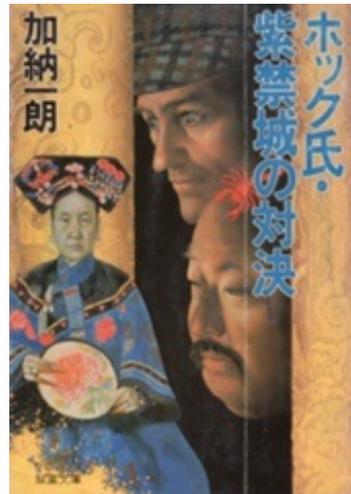
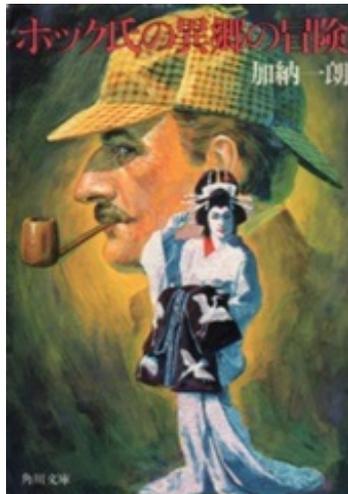
これは短編のアンソロジー。ホームズのパロディは英語圏に止まりません、右二冊は日本産ホームズ、これも豊富でなんと徳川夢声作まで...

三冊とも河出文庫ですが西欧版（左端）は、同じものが講談社文庫にもあります。

上巻 山田風太郎 渡辺温 赤川次郎 横田順彌 木々高太郎 清水義範
深町真理子 都築道夫 徳川夢声 海渡英祐

下巻 加納一朗 柴田錬三郎 阿刀田高 星新一 鮎川哲也 小栗虫太郎 中裕朗
山村正夫

以上掲載順ですが、錚々たるメンバーです。



先の展覧会以外にも和製ホームズはまだまだ豊富、ここでは長編の代表を。

「ホック氏」なっていますがカバーを見れば一目瞭然です、ライヘンバッハの滝から転落したホームズは一時行方不明、チベットへ行っていたそうですが、実は中国や日本にも... (笑)

「ホック氏の異郷の冒険 加納一朗 角川文庫」

「ホック氏紫禁城の対決 加納一朗 双葉文庫」

「漱石と倫敦ミイラ殺人事件 島田荘司 集英社文庫」

面白いのは「異郷の冒険」の目次、

酒に酔った工事人 緑色の香炉 廃屋の冒険 美しい玉乗り 女の拇指
かくれた顔 とぐろを巻いた紐 男爵夫人の醜聞 歌舞伎役者の失踪
箱馬車の追跡 日英秘密文書

「ああ、あれか！」と全部わかる人は、かなりのホームズファンです。

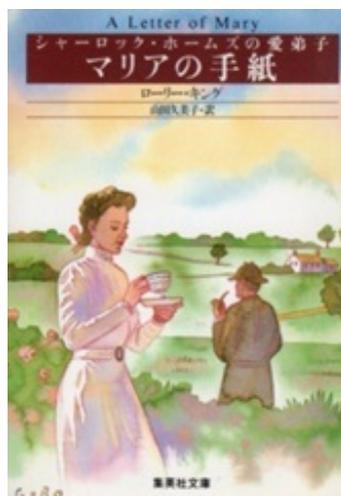
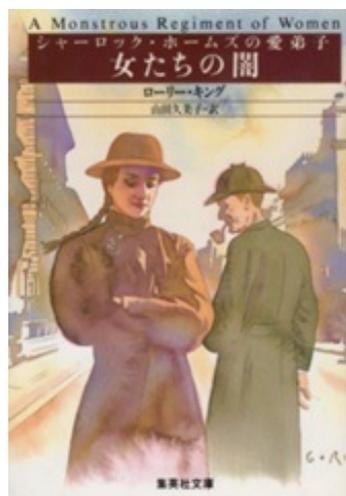
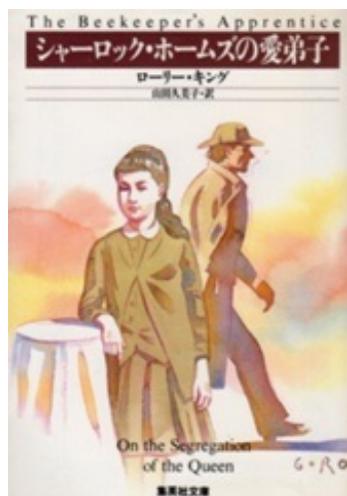
右は、夏目漱石ホームズと出会う！パロディ・パステューシュの面白さの一つに文体模倣と言うのがありますが、しかし翻訳で読むのが普通の我々にドイツの文体はわからない、ここでは漱石の文体を...

歳の差なんて



「恋愛に歳の差なんて無関係」と大学祭で夕子が演じた劇の演題が「歳の差なんて」（笑）

夕子と宇野のうえをいくのがメアリー・ラッセルとホームズ、なんと二人の歳の差は39歳（夕子と宇野の差は20歳）



カバーのメアリー見てください、左と右はずいぶん違ってきますね、左の登場人物紹介にはメアリー・ラッセル（オックスフォード大学学生）になっていますが右ではメアリー・ラッセル・ホームズ、そう二人は結婚したのです。

（前に紹介した夕子の先輩ドーラ・マールも学生、しかし彼女もやがて結婚、夕子と宇野はどうして結婚しないのだろう？笑）

「シャーロック・ホームズの愛弟子 ローリー・キング 山田久美子訳 集英社文庫」

「女たちの闇 以下同」

「マリアの手紙 以下同」

他に「バスカピルの謎」「エルサレムへの道」「公爵家の相続人」「疑惑のマハーラージャ」（2010年現在）



廣作ホームズの世界は、止まるところがありません、SFのFはフィクション！フィクションだったらなんでもありと言うわけでしょう。

過去のホームズ、現在のホームズならまあわかるのですが、未来のホームズに続いてなんと死後のホームズは天国で活躍... (笑い)



「シャーロック・ホームズSF大冒険マイク・レズニック&マーティン・Hグリーンバーグ 訳日暮雅道 河出文庫」

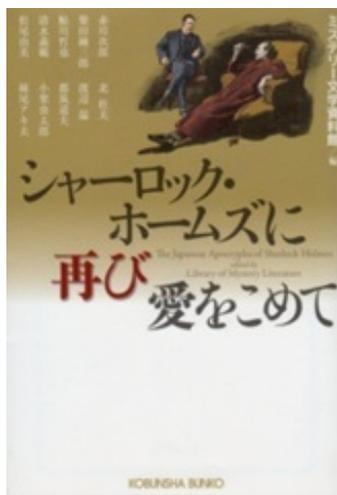
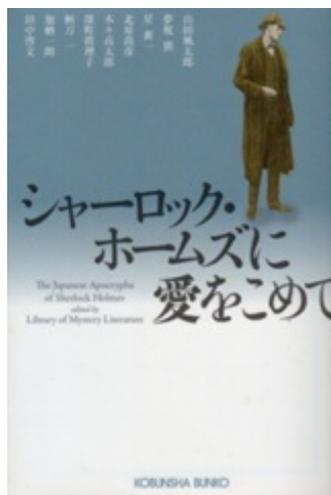
「「シャーロック・ホームズの宇宙戦争 マンリー・Wウェルマン&ウェイド・ウェルマン 訳深町眞理子 創元推理文庫」

右はウェルズの「宇宙戦争」から、ホームズ火星人と戦う！！ロープで火星人の頭によじ登っているのは「失われた世界」のチャレンジャー教授...もちろんワトスン博士も登場します。

今すぐ購入できるもの



今現在書店の文庫の棚にならんでいるものを紹介します。もちろんこれ以外にもありますし、原典なら創元推理文庫や河出文庫などからも出ているのですが。（もちろん新潮文庫にも）



「シャーロック・ホームズに愛をこめて ミステリー文学資料館 光文社文庫」

「シャーロック・ホームズに再び愛をこめて ミステリー文学資料館 光文社文庫」

ほとんどが贋作展覧会と同じですが、それ以外の作品も数点掲載されています。



「おやすみなさい、ホームズさん 上下 キャロル・ネルソン・ダグラス 訳日暮雅通 創元推理文庫」

「おめざめですか、アイリーン 同」

なんともにぎやかなカバーで、一見ジュニア文庫を思わせるのですがそうではありません。（最近の文庫カバー、どこのもなんだか変ですね。）

ホームズを出し抜いたただ一人の人物、それがアイリーン・アドラーですが、これはそのアイリーンの活躍、なにしろホームズをへコマセタほどですからただの女性ではないのです。（題名の意味は、ホームズファンならニヤリですね。）



ジュニア文庫も豊富です、原典をコミック化したものなどもあるのですが、今回は2種類。



「シャーキアン・クロニクルのシリーズ、真瀬もと イラスト山田睦月 新書館ウィングス文庫」



「ホームズ君と探偵倶楽部シリーズ 北原なおみ イラスト成田ばお 講談社X文庫」

いかにもジュニア文庫らしいカバー、下のような表現は好感が持てるのですが、上の方はどうも...ジュニア対象のものは、こんな表現が多いようです。(個人的な感想です)

上は原典の登場人物を適当にアレンジしたパスティーシュ、下はホームズの子孫と名のる転校生が探偵倶楽部に入部して...

引退、そして息子と娘



ホームズは引退後養蜂家として余生を... 15歳のメアリー・ラッセルがホームズに出会ったのはこの引退後のホームズ、だからすごい歳の差が...笑い



「シャーロック・ホームズ最後の解決 マイケル・シェイボン 訳 黒原敏行 新潮文庫」

「蜜の味 H・F・ハード 訳 田口俊樹 ハヤカワミステリー文庫」



「シャーロック・ホームズの息子 フライアン・フリーマントル 訳 日暮雅通 新潮文庫」

「冬のさなかに アビー・ペン・ベイカー 訳 高田恵子 創元推理文庫」

上は、引退後のホームズにこんな事件があってもおかしくはないと思わせるまじめなパスティーシュ、いわば正統派のパスティーシュで抵抗無く楽しめる。

いました息子と娘！相手女性は誰だろう？アイリーン？まさかメアリー・ラッセル...笑い

息子の方は、兄マイクロフト・ホームズの子として育てられ、007のように英国スパイに、これは私の好みではないが、娘の方はお薦め、彼女は女性の権利拡張のための活動家。（別に女性だからの方がと言うものではありません、面白いから

です、念のため。)



ワン君とニャン君のホームズです



上は宮崎駿監督のアニメ「名探偵ホームズ」のシリーズ。下は同じアニメの絵を使っていますがゲームブックです。

下右はニャンコのホームズ、絵本ですが副題が「パスカビル家の大」（間違いではありません犬でなくて大）ニャンコのホームズといえば「三毛猫ホームズ」が有名なのですが、これをホームズ本の仲間に入れるのは少々...

ニャンコに対してチューコウのホームズ「ベイジル」がいて、221Bの地下室から出沒、これも有名なのですが、邦訳は単行本のみで文庫はないようです。

「名探偵ホームズ ドーバーの白い崖 アニメージュ文庫」

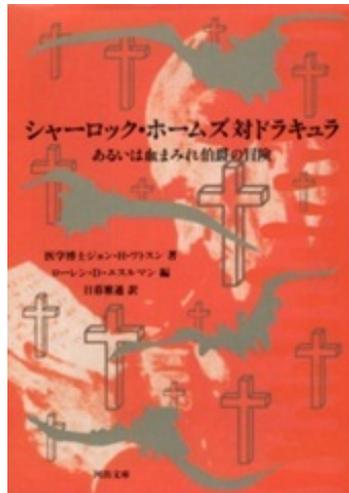
「名探偵ホームズ ソベリン金貨の行方 アニメージュ文庫」

「ウィザード家の秘密 下村家恵子 アニメージュ文庫」

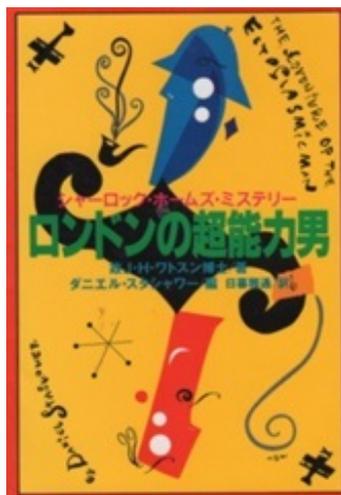
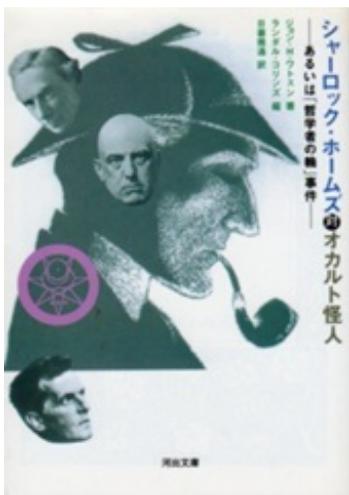
「ミャーロックホームズ 津田直美 中公文庫」



ホームズはどこでもドアならぬ誰でもドアを持っているようです、なにしろ密林の王者ターザンにさえも会っているのですから...



左は「ジキルとハイド」のハイド氏、右はあのドラキュラ伯爵、ということでどっちも2重のパスティーシュ。



次は実在した人物、左はバートランド・ラッセル、ヴィトゲンシュタイン、ケインズなどの哲学者たち、ホームズが対決するのはオカルト怪人クローリー。右は題名の通り心理学者のフロイトですが、中の人物がおもしろくて、奇術の帝王フディニ。

- 「ハイド氏の奇妙な犯罪 ジャン＝ピエール・ノーグレット 訳三好郁朗 創元推理文庫」
- 「SH対ドラキュラ ローレン・D・エルスマン 訳日暮雅通 河出文庫」
- 「SH対オカルト怪人 ランダル・コリンズ 訳日暮雅通 河出文庫」
- 「ロンドンの超能力男 ダニエル・スタシャワー 訳日暮雅通 扶桑社ミステリー」

ホームズの好敵手



「ホームズの好敵手と言えばルパン、モリアーティじゃないかという方があるかも知りませんが、モリアーティはドイツがホームズを終わらせるために急遽登場させた臨時のキャラクター、ところがルパンの方はルブランが大いにライバル意識を燃やして書いたのですから。（実際はホームズ人気にあやかろうとした...影の声）



「ルパン対ホームズ ルブラン 訳野内良三 旺文社文庫」

「真説ルパン対ホームズ 声辺拓 創元推理文庫」

「ホームズ対ルパン 藤原幸太郎 ワニの豆本」

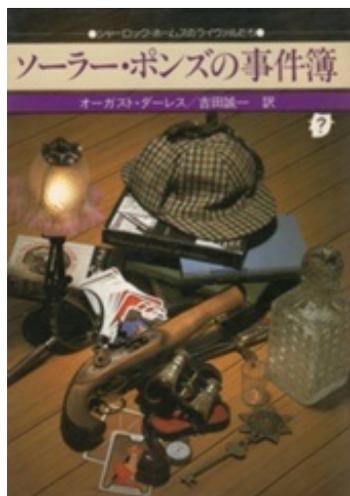
ホームズはルパンものの第一作「怪盗紳士アルセーヌ・ルパン」に早くも登場、その他いくつかの作品に登場しますが、二人が正面から対決するのが「ルパン対ホームズ」ただし敵方ルブランが書いたのですから、シャーロキアンにとってはあまり面白くないかも... (笑い)

さてこのライバル同士、二人の関係を見破ったのが芦辺拓の「真説ルパン対ホームズ」... (笑い)

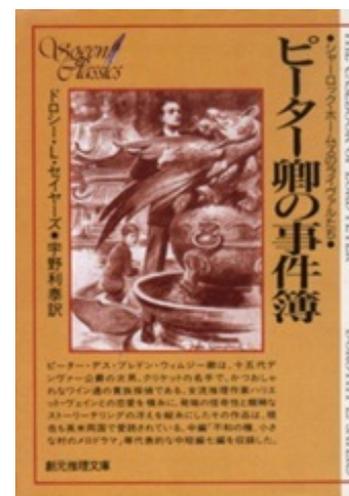
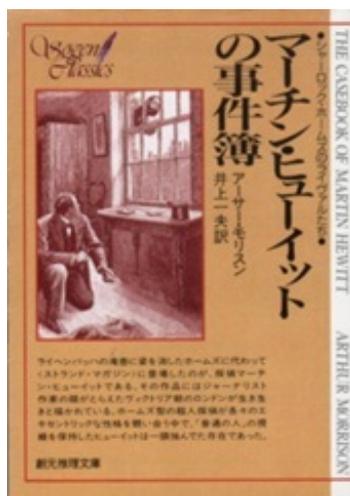
ついでに、手に汗を握る二人の対決を！嘘、3分間ミステリーの類です、「ルパン対ホームズでなく「ホームズ対ルパン」になっているのがミソ...



ホームズ以降、続々と名探偵が登場します、題してシャーロック・ホームズのライバルたち。



「ソーラー・ポンズの事件簿 オーガスト・ダーレス 訳吉田誠一 創元推理文庫」
「シュロック・ホームズの冒険 ロバート・L・フィッシュ 訳深町眞理子他 ハヤカワ文庫」
「シュロック・ホームズの回想 同」



「マーチン・ヒューイットの事件簿 アーサー・モリスン 訳井上一夫 創元推理文庫」
「ピーター卿の事件簿 D・L・セイヤーズ 訳守野利泰 創元推理文庫」
「S・Hのライバルたち1 編集押川曠 訳押川曠 乾信一郎 ハヤカワ文庫」

上はもどき、要するにパロディです、ソーラー・ポンズは人気があり、そのまたパロディまで出たと言うことですが、下は少し違ってライバル名探偵、このシリーズには「思考機械」とか「隅の老人」なども出ています。

右は短編のアンソロジー、名探偵続々と登場、「ハリファックス博士」「クレイ大佐」「ジャギンズ氏」「質屋のヘイガー」等々、これは2も3もあるので聞いたこともなかった探偵たちの揃い踏み...ちなみに「ピックロック・ホールズ」「ヘモロック・ジョーンズ」「シャールウ・コムズ」「シャイロック・ホームズ」となるとライバルと言うよりもどきだと思えますが...



引退後のホームズがいるのだから若いホームズは？と、本箱をかき回したらいました！16歳のホームズ、あれ！？ワトスンにもう出会ってる...そしてホームズに寄り添うのは美少女エリザベス！カバーは映画からです。



「ヤングシャーロック、ピラミッドの謎 A・アーノルド 訳宮脇孝雄 新潮文庫」

「S・Hと賢者の石 五十嵐貴久 光文社文庫」

「ホームズ最後の対決 ロバート・リー・ホール 訳小林司、東山あかね 講談社文庫」

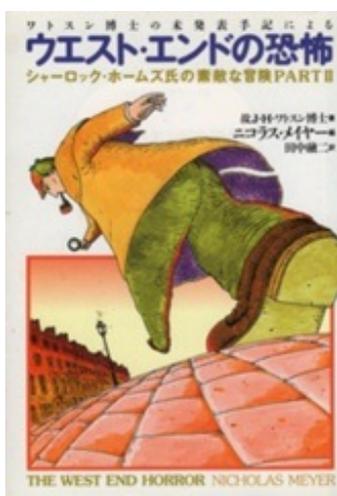
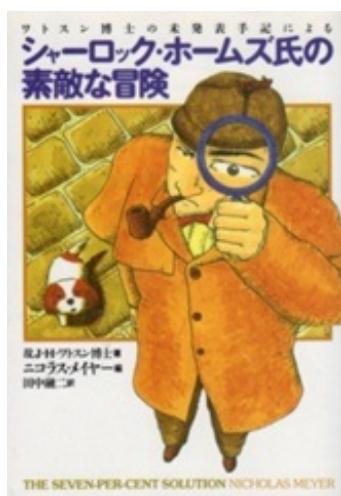
次は、謎の真実を。ライヘンバッハの真実、バリツの真実、引退後の真実、半年間の空白の真実...

ところが、ところが、これぞ真実！なんとホームズは未来人だった！いやホームズのみならずモリアーティも！過去の世界（ホームズたちから見れば）我々から見れば現代の世界で二人は最後の対決。

恋人とともに優雅な生活？



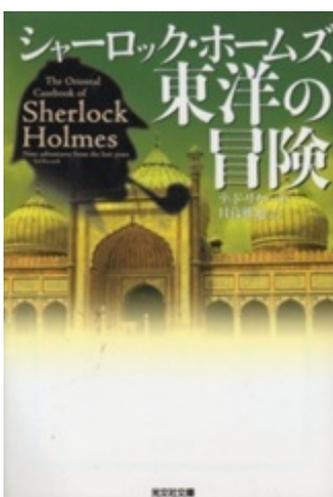
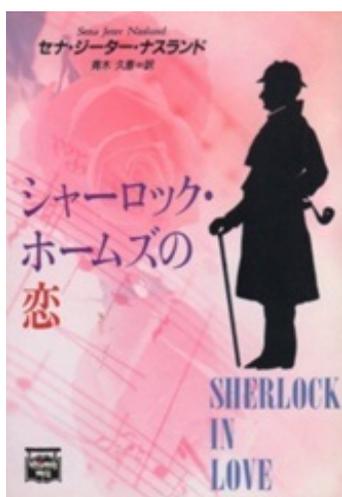
悪い習慣を止めさせるためのワトソンの計画にうまく嵌められたホームズだが...ウエストエンドは素敵な冒険の続編だが、事件は別のもの、優雅な生活のさなか、ネス湖の怪獣ネッシーが現れて！？



「シャーロック・ホームズ氏の素敵な冒険 ニコラス・メイヤー 訳田中融二 扶桑社文庫」

「ウエスト・エンドの恐怖 同」

「シャーロック・ホームズの優雅な生活 M&M・ハードウィック 訳榎林哲 創元推理文庫」



「S・Hの恋 セナ・ジータ・ナスランド 訳青木久恵 ハヤカワ文庫」

「ライヘンバッハの奇跡 ジョン・R・キング 訳夏来健次 創元推理文庫」

「S・H東洋の冒険 テッド・リカーディ 訳日暮雅通 光文社文庫」

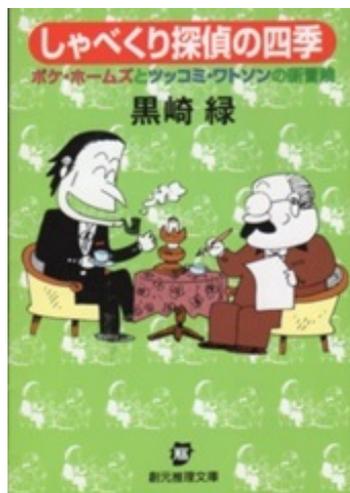
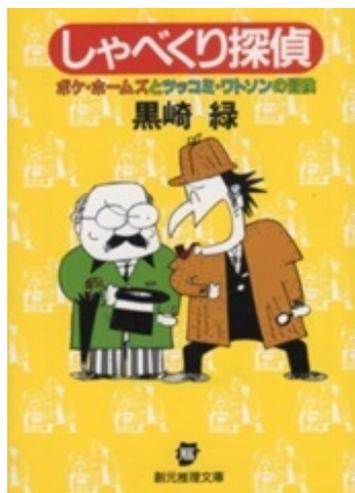
歳老いたワトソンが懐かしの221Bを見上げると、なんとそこにはホームズの影が...ホームズには秘められた恋人がいた

ライヘンバッハの滝、転落したのは？

そして空白の期間は東洋で活躍。



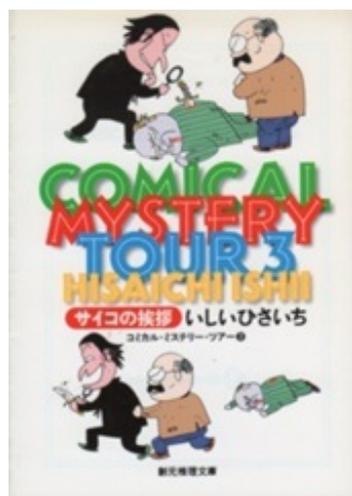
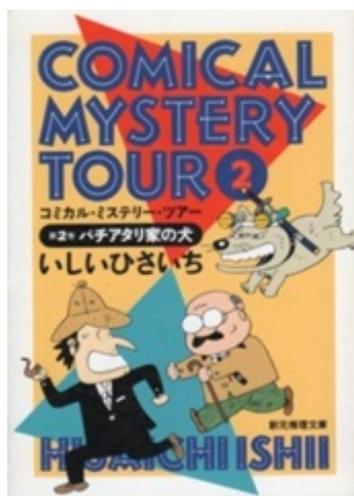
ボケ・ホームズとツッコミ・ワトスン、正直に言ってしゃべくりのしっこさにはうんざり...
しかし面白い！



「しゃべくり探偵 黒崎緑 創元推理文庫」

「しゃべくり探偵の四季 同」

ののちゃんホームズと競演！（嘘）でも、ののちゃんの担任藤原先生は登場します。（笑い）
題して「赤巻連盟」「バチアタリ家の犬」「サイコの挨拶」



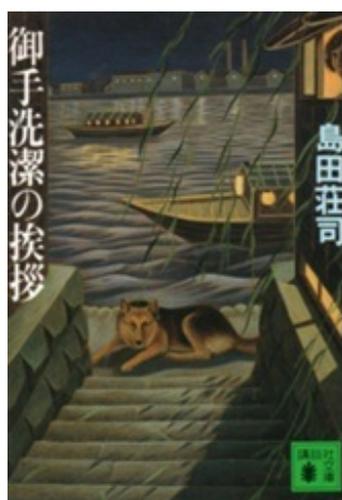
「コミカル・ミステリー・ツアー1,2,3 いしいひさいち 創元推理文庫」

題名はホームズでないけど

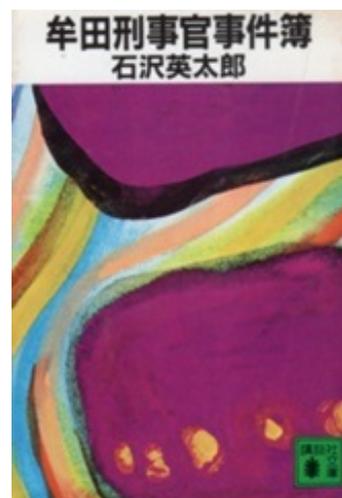
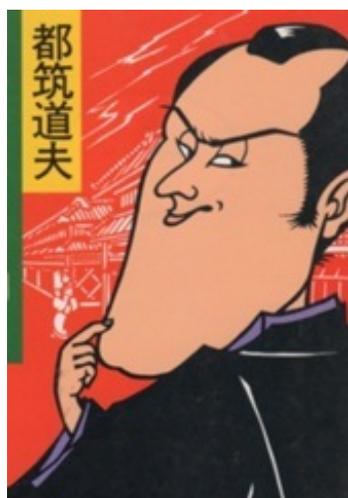


今回は一冊まるごとではありませんが、ホームズ関連パロディの掲載されているものを少し。掲載を知っていて、それを古書店で探すのも楽しいのですが、読んでいて「そうか、あれだ!」と気づくのはもっと楽しいものです。

上段は「赤毛連盟」の本歌取、本歌取は、海外を含めたこれが多めで、先の「贗作展覧会上」にも三篇ほど載っています。「バルーン・タウン」はホームズのみならず、妊婦さんの「オリエント急行」が...ミステリーファンを笑わせます。



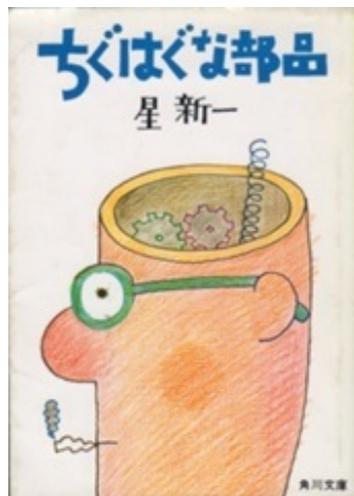
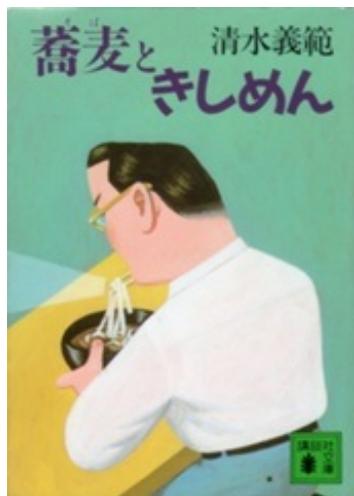
次は、「顎十郎」の新たな活躍、続いてなんと銭型平次ホームズと競演! ?



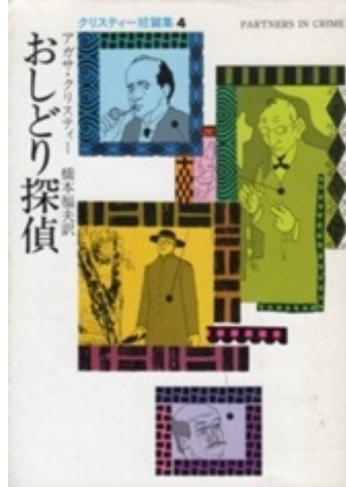
敢えて、作品名を書きません、すでに読んでいる方はおわかりですね、未読の方はお探してください。(夕子が出てきた! バンザイ! バカ...)



前頁の続きです、「贗作展覧会」「S・Hに愛をこめて」などのアンソロジーは、これらから選ばれたということになります。



次は海外もの、ただし「街中の男」はアンソロジーです。

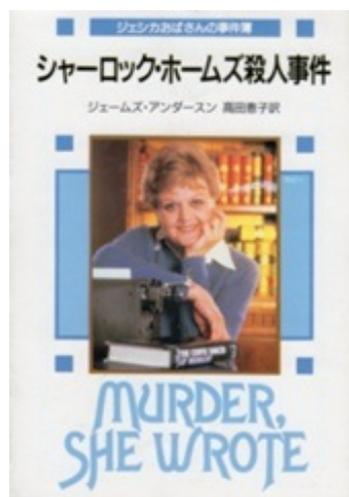
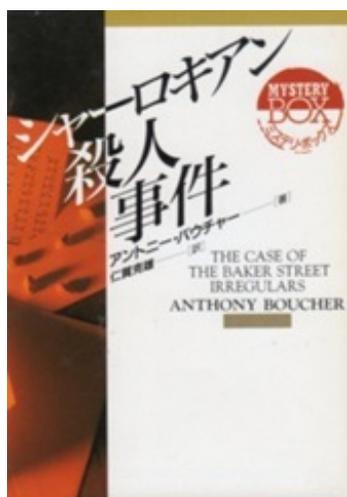


少し毛色の変ったものを



今回は、少々視点の変ったものを。

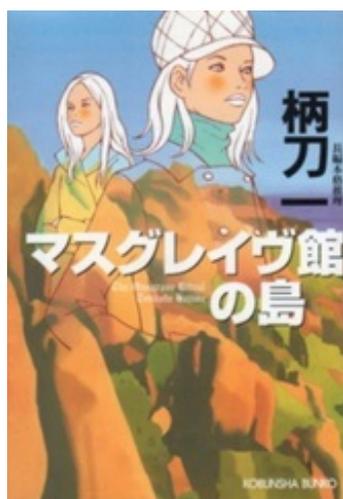
左からシャーロキアン、中はシャーロック・ホームズに変装していた男性、そして演劇のホームズ役の俳優、要するにホームズ（もどきも含めた）の活躍する世界ではなくて、ホームズを楽しむ我々現実世界のミステリーです。（現実と言ってももちろんフィクションには違いないのですが。）



「シャーロキアン殺人事件 アントニー・バウチャー 訳仁賀克雄 教養文庫」

「S・H殺人事件 ジェームス・アンダースン 訳高田恵子 創元推理文庫」

「ハワード・ヒュース事件 ステュアート・カミンスキー 訳土屋晃 文春文庫」



「マスグレイヴ館の島 柄刀一 光文社文庫」

「真夜中の騎士 赤川次郎 徳間文庫」

左は女性シャーロキアン、右は赤川氏ファンならおなじみの「第9病棟」シリーズの一冊、「三毛猫H」が単に名探偵の代名詞に過ぎないのに対して、こちらは実際のホームズ？が登場するのですから...笑い

「猫を探偵にの発想に驚いた」と言う人が多いのですが、私は「第9病棟」の方の発想に驚きました、いくら赤川ワールド

とは言え「早川一家」ほどの無理もなく、これなら自然ですし。

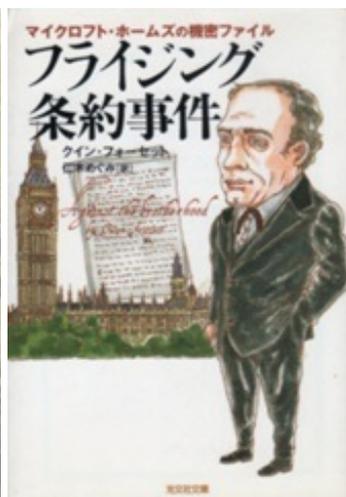
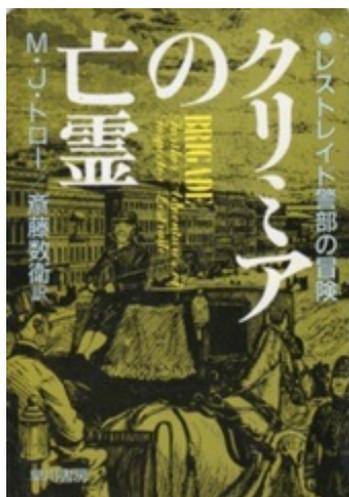
私は「三毛猫」あまり好きでないのです、なぜかと言うと、犯人やトリックを見破ったと言ってもなんとなく「三毛猫」の超能力によつて的なものが多く、その推理の過程が書かれていないからです、これではミステリーとしてはどうも...

赤川氏の数あるシリーズでは「三毛猫」が最も人気なのですね、「どうして？」と私にとってはこの方が謎です。（おい、脱線してるぞ！ 影の声）



先にアイリーン・アドラーの活躍を紹介しましたが、他にもホームズに登場する人物の活躍はいろいろあります、雑誌ですが、221Bの大家さんハドソン夫人の活躍するものを読んだこともありますし

と言うことでレストレイド警部と、ホームズの兄マイクロフト・ホームズを、レストレイド警部と言えばホームズにやや軽蔑されているのですがここでは名警部。

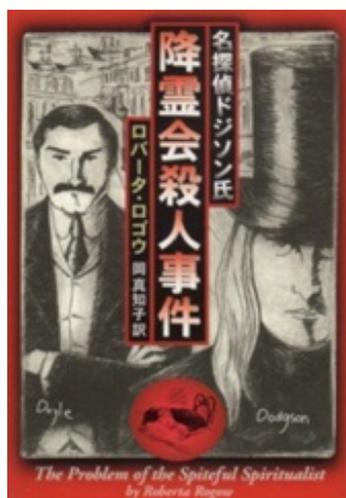
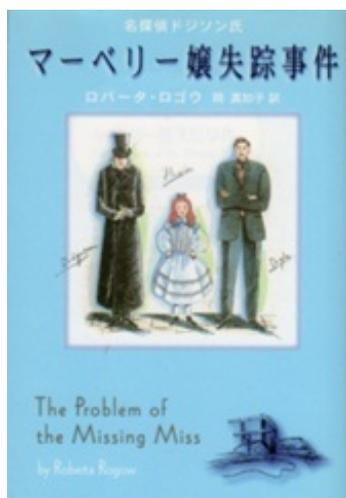


「霧の殺人鬼 M・J・トロア 訳斎藤和衛 ハヤカワ・ミステリー文庫」

「クリミアの亡霊 同」

「フライジング条約事件 クイン・フォーセット 訳仁木めぐみ 光文社文庫」

次にホームズの作者コナン・ドイルの登場、ただし左二冊の探偵は、「不思議の国のアリス」の作者ルイス・キャロル、右はドイルと奇術王フィディーニの競演、ドイルのもとにはポーの亡霊が現れて...



「マーベリー嬢失踪事件 ロバート・ロゴウ 訳丘真知子 扶桑社ミステリー」

「降霊会殺人事件 同」

「ポーをめぐる殺人 ウィリアム・ヒョーツパーク 訳三川基好 扶桑社ミステリー」



ここ、画像はいくつまでアップできるのだろう？
今回は息抜きに楽しいものを...

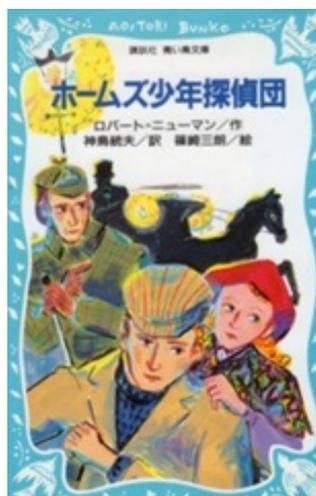
ホームズのいない町に「あやしい一輪車乗り」が...ホームズファンなら何のもじりかすぐわかりますね、「四つのサイン入りの本」「銀星ちゃんがいっぱい」などなど13のまだらな推理。

ベーカーストリートイレギュラーズ、貧しくともしたたかに人情味厚く生きていく下町の子どもたち、スクリーマー（わめきや）と呼ばれる少女が楽しい。

かわいいホームズとワトソンのカバー、これ中はホームズに関係ないのですが北森鴻の書いたジュヴナル、彼のミステリーは面白くて大好きだったので...



「ホームズのいない町 蒼井上鷹 双葉文庫」



「ホームズ少年探偵団 ロバート・ニューマン 訳神鳥統夫 青い鳥文庫」



「ちあき電脳探偵社 北森鴻 PHP文芸文庫」

「カバーの絵だけが関係するものなど出すな！」（陰の声）しかし、もしドイルがホームズを書かなかったら絶対に描かれない絵ですから...「だったら三毛猫ホームズは？」うーん確かに絶対に付かなかった名前ですね...

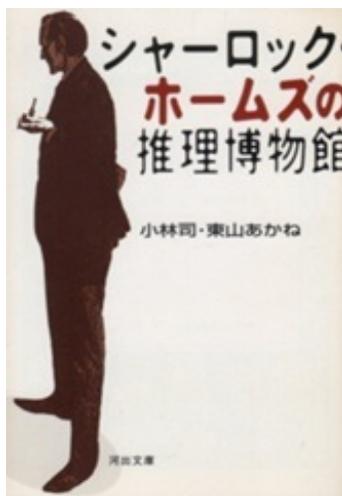
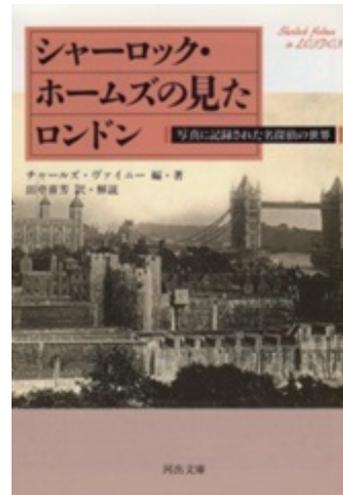
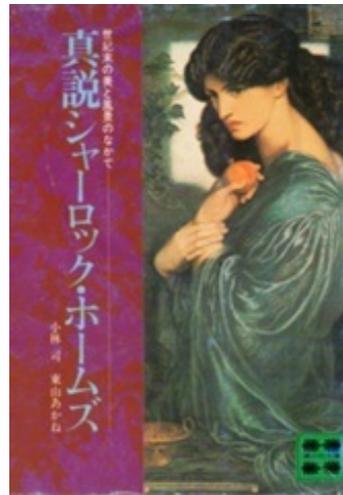
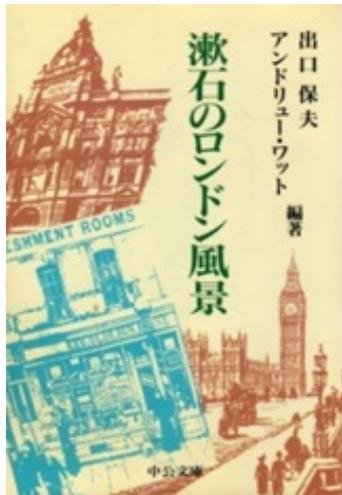
三毛猫ホームズの実写版と言う動画を見ました、なんと三毛猫は化け猫で、その正体は太っちょのおばさん、これ鍋島藩の化け猫よりもっと怖い！で猫のままの時は、これまた太っちょのなまげ猫、文庫のカバーに描いてある柔軟な身体の敏捷そうな猫のイメージはどこにも...

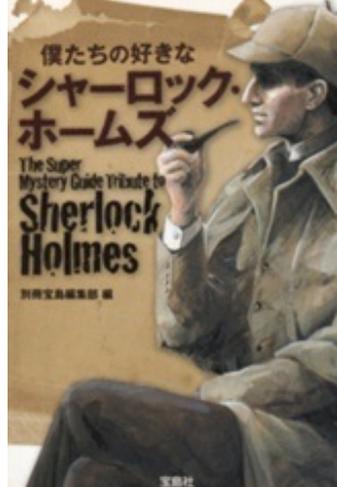
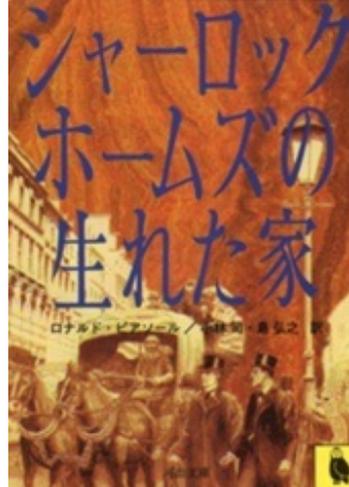
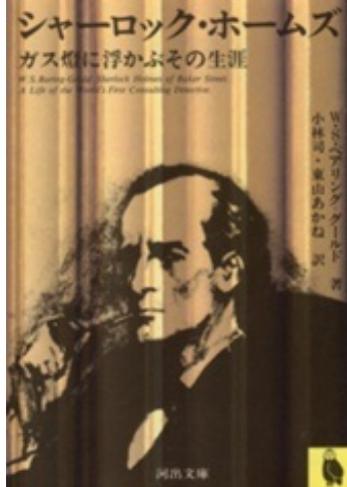
三毛猫ホームズ少し好きになりました、あまりにも酷い実写版を見てかわいそうになったからです。

「おい、またまた脱線！」



いわゆる関連本です、ビジュアルで楽しいものもあるのですが、あまりにもシャーロキアンのものはどうも...、素直に楽しめなくなるのです。(ただしあくまでも個人的な見解ですが。)





「緋色の研究」は「緋色の習作」だなどと言う意見もあるのですが、これは「A Study in Scarlet」のStudyは研究という意味がないからだそうです。しかし習作となると「習い事」美術や音楽など芸術の世界では「研修中」もしくは「ための作業」「実験的（な作品）」などに使われることばですね、（ピカソのまだ習作時代の作品だ...）

ホームズに「おならいごと」が相応しいとは思えないのですが...

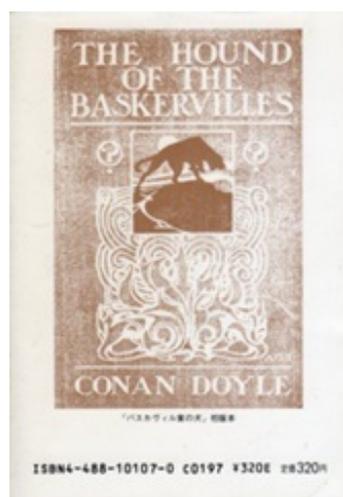
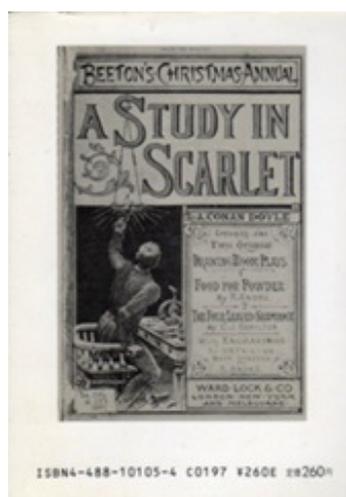
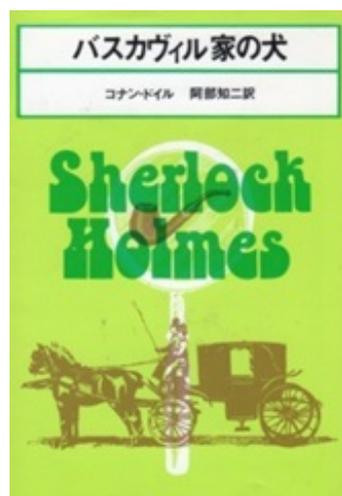
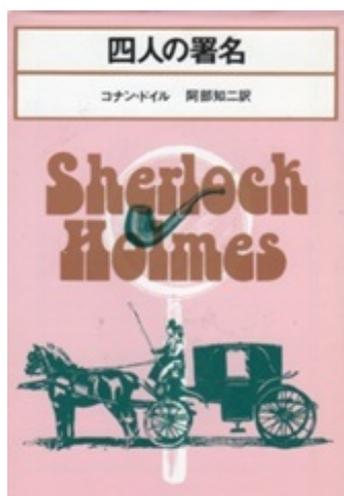
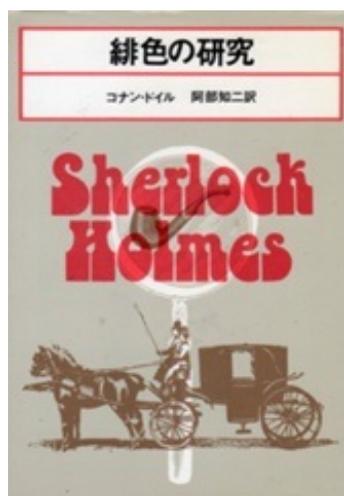


文庫ではないのですが珍しいものを、珍しいといっても希少という意味ではなく珍奇の方、ある古書店で一冊200円で買ったものです、山中峰太郎編著 名探偵ホームズ全20巻。

シャーロキアンの方にクイズ、次はある短編の小見出しです、この短編の題名は？

大統領と副大統領 風の名探偵 運ちゃんはやべる 十字路から追跡 飛んだ偶然

下左、柴田錬三郎のホームズ「四つの署名」なのですが、前書きには「四つの署名以外に三つの短編を入れました」と書いてある、ところが目次を見ると四つの短編が並んでいる！？例の円月殺法（笑い）右は学習雑誌「六年の科学」の付録です、付録といっても堂々226頁で16事件を掲載。



カバーの裏「四人の署名」はホームズの変な顔なので敬遠

ここ、しばらく放置していたのですが、これで終わりにしたいと思います、本当はまだまだあるのですが、限りがないので...これがホームズ本の凄いところです。

ホームズの文庫本

2000年10月20日現在

シャーロック・ホームズの正典、パロディ、パスティーシュ、その他の文庫本です。あくまで小生の把握している範囲のもので、これが全てと言うわけではありません。また誤解も多いと思いますので気づき次第修正してください。

パロディ、パスティーシュの類についても独断で選んだもの、またこれに該当しないものも含んでいます。これもまた適当に取捨選択をお願いします。（ホームズでなくドイルが登場するもの、題名だけがそれらしいものも含んでいます。）

かつて私のホームページに掲載していたものです、当時は追加充実させていくつもりだったのですが、PCが壊れホームページへの興味も薄れてそのままにしていたもの、したがって2000年以降のものはまったく載っていません。

() 内に題名はその編、章のみで他は無関係

2行め、作者、訳者、初版年の順（未記入は手持ちなく不明）

[朝日文庫] -----

「名作文学に見る家」

小幡陽次郎 横島誠司 H9

[岩波文庫] -----

「SHの冒険」

コナン・ドイル 菊池武一 12編中6編 初版S11 改版S37

「SHの回想」

コナン・ドイル 菊池武一 11編中5編 初版S12 改版S38

「SHの帰還」

コナン・ドイル 菊池武一 13編中5編 初版S13 改版S38

[ウイングス文庫] -----

「シャーロキアン・クロニクル1 エキセントリック・ゲーム」

真瀬もと H11

「シャーロキアン・クロニクル2 ファントム・ルート」

真瀬もと H11

「シャーロキアン・クロニクル3 アサシン」

真瀬もと H11

[学研M文庫]

「超読書体験 上」(シャーロック・ホームズ 人間的な超人)

コリン・ウイルソン 柴田元幸 H12

[角川文庫]

「SHの冒険」

コナン・ドイル 鈴木幸夫 S32 2分冊後合冊

「SHの回想」

コナン・ドイル 鈴木幸夫 S30

「SHの生還」

コナン・ドイル 鈴木幸夫 S31 2分冊後合冊

「緋色の研究」

コナン・ドイル 安部知二 S34

「四人の署名」

コナン・ドイル 安部知二 S35

「バスカーヴィル家の犬」

コナン・ドイル 鈴木幸夫 S31

「恐怖の谷」

コナン・ドイル 安部知二 S35

「失われた世界」

コナン・ドイル 永井淳 S42

「地球最後の日」

コナン・ドイル 永井淳 S42

「ルパン対ホームズ」

ルブラン 大友徳明 S51

「ルパンの奇巖城」

ルブラン 水谷準 S35

「怪盗ルパン」

ルブラン 水谷準 S7

「ちぐはぐな部品」(SHの内幕)

星新一 S47

「死が二人を別つまで」(蹉跌)

鮎川哲也

「ホック氏の異郷の冒険」天山と同一

加納一朗 S58

「悪業年鑑1」(にっぽまにあ)

都筑道夫

「3分間探偵ゲーム」(柴錬も夢声も書いたホームズ譚)

新保博久 S56

「密室殺人事件」(洋書そうどう 黒崎緑 しゃべくり探偵中の一編)

阿刀田高 他 H6

「本陣殺人事件」

横溝正史 S48

「本格ミステリー館」

綾辻行人 島田荘司 H9

[河出文庫] -----

「ドラキュラドラキュラ」(サセックスの吸血鬼 ドイル)

種村季弘 編 S60

「世界怪談名作集 下」(北極星号の船長 ドイル)

岡本綺堂 訳 S62

「H贗作展覧会」講談社と同一

各務三郎 編 H1

「H贗作展覧会 日本編」上下

新保博久 編 H2

「SHガス灯に浮かぶその生涯」

ベアリング・グールド 小林司 東山あかね S62

「SH17の愉しみ」

J・E・ホルロイド 小林司 東山あかね S63

「SHの生まれた家」

R・ピアソール 小林司 島弘之 H2

「SHの私生活」

V・スタリット 小林司 東山あかね H4

「SHの見たロンドン」

C・ヴァイニー 田中喜芳 H9

「SH対ドラキュラ」

R・D・エルスマン 日暮雅通 H4

「SH対オカルト怪人」

ランダル・コリンズ 日暮雅通 H7

「学園ミステリー傑作選1」(イソップとドイルと 梶龍雄)

赤川次郎 他 S63

「Oヘンリーミステリー傑作選」(シャムロック・ジョーンズの冒険他)

小鷹信光 編 S9

[現代教養文庫] -----

「シャーロキアン殺人事件」

A・バウチャー 仁賀克雄 H7

「誰にでもできる殺人」(黄色い下宿人)

山田風太郎

「ミステリ百科辞典」

間羊太郎 S56

「やぶにらみの世界娯楽映画史」戦前編

児玉数夫 S53

「海外ミステリージャンル別ベスト100」

仁賀克雄 H5

「海外ミステリー探偵ベスト100」

仁賀克雄 H6

「探偵小説の謎」

江戸川乱歩 S31

[広済堂文庫]

「名探偵法務須の謎解き推理事件簿」

矢島誠 H10

[講談社文庫]

「SHの冒険」

コナン・ドイル 鮎川信夫 S48

「SHの回想」

コナン・ドイル 鮎川信夫 S48

「SHの帰還」

コナン・ドイル 鮎川信夫 S50

「SH最後の挨拶」

コナン・ドイル 鮎川信夫 S51

「緋色の研究」

コナン・ドイル 鮎川信夫 S52

「四つの署名」

コナン・ドイル 鮎川信夫 S54

「バスカヴィル家の犬」

コナン・ドイル 鮎川信夫 S55

「華麗なる幻想」(ロス・アミゴスの大失策 ドイル)

福島正実 編 S52 海外SF傑作選

「世界スパイ小説傑作選1」(ブルースパーティトン設計書 ドイル)

丸谷才一 編 S 5 3

「真説SH」

小林司 東山あかね S 5 5

「H鷹作展覧会」河出と同一

各務三郎 編 S 5 5

「犯罪王モリアーティの生還」上下

G・ジョン 宮佑二 S 5 4

「犯罪王モリアーティの復讐」上下

G・ジョン 宮佑二 S 5 5

「H最後の対決」

H・ロバート 小林司 東山あかね S 5 5

「世界鉄道推理傑作選2」(消えた機関車の冒険 O・ダーレス)

小池滋 編 S 5 4

「時と次元の彼方から」(タイムパトロール P・アンダーソン)

福島正実 編 S 5 0 海外SF傑作選

「世界SFパロディ傑作選」(スカーレティン研究 J・S・ソマーズ)

風見潤 S 5 7

「牟田刑事官の事件簿」(師走のナポレオン)

石沢英太郎 S 5 7

「二人だけの協奏曲」(絶筆)

赤川次郎 横田順弥 S 6 2

「新顎十郎捕物帳」(えげれす伊呂波)

都筑道夫 S 6 3

「夢幻地獄四十八景」(ごろつき)

都筑道夫 S 5 5

「世界五大探偵の戸籍簿」

ヒュー・イームズ 宮佑二 S 5 8

「ユーモアミステリー傑作選」(エリートタイプの怪事件 フィッシュ)

風見潤 宮田均 編 S 5 5

「御手洗潔の挨拶」(紫電改研究保存会)

島田荘司 H 3

「課外授業」(SH氏の素敵な冒険における催眠術の研究)

青木雨彦 S 5 5

「まだらの蛇の殺人」

阿井渉介 H 1 0

「ミステリーの書き方」(ワトスン役は必要か レックス・スワト)

ローレンス・トリート編

「探偵小説辞典」

[講談社X文庫]

「ホームズ君は恋探偵」

北原なおみ H2

「緋色のリップスツテック」

北原なおみ H2

「4年目のラブサイン」

北原なおみ H2

「消えた卒業写真」

北原なおみ H2

「秘密のラブメッセージ」

北原なおみ H3

[講談社大衆文学館]

「蠅男」

海野十三 H8

「奇想小説集」(黄色い下宿人)

山田風太郎 H7

[講談社英語文庫]

「SHの冒険」英文 4編

コナン・ドイル H6

[光文社文庫]

「クイーンの定員1」(赤毛連盟 ドイル)

E・クイーン編 各務三郎 S58

「漱石と倫敦ミイラ殺人事件」

島田荘司 H6

「逃げ出した死体」

山村正夫 S60

「逆立ちした死体」

山村正夫 S61

「太り過ぎた死体」

山村正夫 S62

「抱きついた死体」

山村正夫 H2

「夜這いする死体」

山村正夫 H 6

「赤ん坊になった死体」

山村正夫 H 4

「ロンドン塔でミステリー」

金春智子 H 1

「クリスマスに捧げるミステリー」 (聖夜に死す J・パウエル)

シムノン他 H 5

「シュロック・ホームズの迷推理」

フィッシュ 深町真理子 H 1 2

[集英社文庫] -----

「SH傑作選」6編

コナン・ドイル 中田耕治 H 4

「世界名探偵コレクション10-1S・H」6編

コナン・ドイル 日暮雅通 H 9

「漱石と倫敦ミイラ殺人事件」

島田荘司 S 6 2

「葬送行進曲」(新赤髪連盟)

鮎川 哲也

「銀河パトロール報告」(まだらのひもの)

横田順弥 S 5 6

「SHの愛弟子1」

ローリー・キング 山田久美子 H 9

「SHの愛弟子2 女たちの闇」

ローリー・キング 山田久美子 H 1 0

「SHの愛弟子3 マリアの手紙」

ローリー・キング 山田久美子 H 1 2

[集英社コバルト文庫] -----

「海外ミステリー傑作選」(おどし屋ミルバートン ドイル)

武田武彦 編 S 5 3

[春陽文庫] -----

「本陣殺人事件」

横溝正史 S 2 6 横溝正史長編全集 1

「本陣殺人事件」

横溝正史 H 7 金田一耕助の事件簿シリーズ

[小学館文庫] (コミック) -----

「ポーの一族 2」 (ホームズの帽子)

萩尾望都 H10

[小学館文庫] -----

「ミステリー作家90人のマイミステリー映画」 (SHの冒険)

テレパル編集部 H11

[新潮文庫] -----

「シャーロック・ホームズ」7編選択

ドイル 延原謙 S12 旧新潮文庫

「SHの冒険」12編中10編

ドイル 延原謙 S28

「SHの思い出」11編中10編

ドイル 延原謙 S28

「SHの帰還」13編中10編

ドイル 延原謙 S28

「SH最後の挨拶」

ドイル 延原謙 S30

「SHの事件簿」12編中10編

ドイル 延原謙 S28

「緋色の研究」

ドイル 延原謙 S28

「四つの署名」

ドイル 延原謙 S28

「バスカヴィル家の犬」

ドイル 延原謙 S29

「恐怖の谷」

ドイル 延原謙 S28

「SHの叡智」冒険～事件簿未収録分

ドイル 延原謙 S30

「わが思い出と冒険」

ドイル 延原謙 S40

「ドイル傑作集1 ミステリー編」

ドイル 延原謙 S32

「ドイル傑作集2 海洋奇談編」

ドイル 延原謙 S33

「ドイル傑作集3 ボクシング編」

- ドイル 延原謙 S 3 5 * 現行は「恐怖編」
- 「ドイル傑作集4 冒険編」
- ドイル 延原謙 S 3 5
- 「ドイル傑作集5 恐怖編」
- ドイル 延原謙 S 3 5 * 現行は「傑作集3」
- 「ドイル傑作集6 海賊編編」
- ドイル 延原謙 S 3 6
- 「ドイル傑作集7 クルンバの悲劇」
- ドイル 延原謙 S 3 3
- 「ドイル傑作集8 失われた世界」
- ドイル 延原謙 S 3 6
- 「ルパン対ホームズ」
- ルブラン 堀口大学 S 3 5
- 「奇岩城」
- ルブラン 堀口大学 S 3 4
- 「強盗紳士」
- ルブラン 堀口大学 S 3 5
- 「続813」
- ルブラン 堀口大学 S 3 4
- 「ヤングS ピラミッドの謎」
- A・アラン 宮脇孝雄 S 6 1
- 「SHの復活」
- J・シモンズ 新庄哲夫 S 5 1
- 「レストレード警部と三人のH」
- MJ・トロー 後藤安彦 H 1
- 「大日本帝国スーパーマン」(銭形平次ロンドン捕物帳)
- 北朴夫 H 3
- 「怪盗ジバコの復活」(禿頭組合)
- 北朴夫 H 4
- 「一千一秒物語」(黒い箱)
- 稲垣足穂
- 「人外魔境の秘密」
- 横田順弥 H 3
- 「犬はミステリー」(ラッフルズバスカヴィル家の犬を追うバリ・パロ)
- 小梨直 編 H 4
- 「クリスマス12のミステリー」(ディケンズ愛好家オガスト・ダーク)
- 池央耿 編 S 6 0
- 「ビックアップルミステリー」(1ペニー黒切手の冒険 E・クイーン)

E・クイーン他

「殺人はお好きですか」 (戦艦三笠設計書 海渡英祐)

海渡英祐 他 H 3

「神野推理氏の華麗な冒険」

小林信彦 S 5 6

「超人探偵」

小林信彦 S 5 9

「吾輩は猫である殺人事件」

奥泉光 H 1 1

「シャーロック・ホームズ」

ドイル 延原謙 C D R O M版 H 9

[創元推理文庫] -----

「S Hの冒険」

コナン・ドイル 安部知二 S 3 5

「回想のS H」

コナン・ドイル 安部知二 S 3 5

「S H最後の挨拶」

コナン・ドイル 安部知二 S 3 5

「S Hの生還」

コナン・ドイル 安部知二 S 3 5

「S Hの事件簿」

コナン・ドイル 深町真理子 H 3

「緋色の研究」

コナン・ドイル 安部知二 S 3 5

「四人の署名」

コナン・ドイル 安部知二 S 3 5

「バスカヴィル家の犬」

コナン・ドイル 安部知二 S 3 5

「恐怖の谷」

コナン・ドイル 安部知二 S 3 5

「マラコット深海」

コナン・ドイル 大西尹明 S 3 8

「失われた世界」

コナン・ドイル 龍口直太郎 S 4 5

「毒ガス帯」

コナン・ドイル 龍口直太郎 S 4 6

「霧の国」

コナン・ドイル 龍口直太郎 S 4 6

「優將ジェラルルの回想」

コナン・ドイル 上野景福 S 4 6

「優將ジェラルルの冒険」

コナン・ドイル 上野景福 S 4 7

「SHの優雅な生活」

M&M・ハードウィック 榎林哲 S 4 9

「リュパン対ホームズ」

モーリス・ルブラン 石川涌 S 4 0

「怪盗紳士リュパン」

モーリス・ルブラン 石川涌 S 4 0

「奇巖城」

モーリス・ルブラン 石川涌 S 4 0

「SHの秘密ファイル」

ジューン・トムスン 押田由起 H 3

「SHのクロニクル」

ジューン・トムスン 押田由起 H 5

「SHのジャーナル」

ジューン・トムスン 押田由起 H 8

「ホームズのドキュメント」

ジューン・トムスン 押田由起 H 1 1

「ホームズとワトスン」

ジューン・トムスン 押田由起 H 1 0

「エドウィン・ドルードの失踪」

ピーター・ローランド 押田由起 H 5

「冬のさなかに」

アピイ・ベン・ベイカー 高田恵子 H 8

「しゃべくり探偵」

黒崎緑 H 9

「コナン・ドイル」

ジュリアン・シモンズ 深町眞理子 H 3

「SHの宇宙戦争」

M&W・ウェルマン 深町眞理子 S 5 5

「COMICAL MYSTERY TOUR」1・2・3

いしいひさいち H 4 H 7 H 1 0

「二人で探偵を」(婚約者失踪の謎)

アガサ・クリスティ 一ノ瀬直二 S 4 7

「ミニミステリー傑作選」(ミニシャロッキアーナ カー他)

E・クイーン 編 吉井、永井、深町、中村 S50

「E・クイーンの冒険」(1ペニー黒切手の冒険)

E・クイーン 井上勇 S36

「人生の阿保」

木々高太郎

「青銅ランプの呪い」

D・カー 後藤安彦 S58

「カー短編集」3(ウィリアムウィルソンの職業◇)

D・カー 宇野利泰 S49

「黒い塔の恐怖 カー短編全集5」(コンクシングルトン卿文書事件)

D・カー 宇野利泰 永井淳 S58

「SH殺人事件」

ジェームス・アンダースン 高田恵子 S61

「黒後家蜘蛛の会」2(終局的犯罪)

アイザック・アシモフ 池央耿 S53

「日本推理小説全集11名作集1」(兵隊の死 渡辺温)

海野十三 他 H8

「世界短編傑作集 1」(放心組合 バー)

江戸川乱歩 編 S35

「ドラキュラ戦記」

キム・ニューマン 梶元靖子 H10

「名探偵登場」

ウォルター・サタスウェイト 植草昌実 H11

「キッド・ピストルズの冒険」

山口雅也 H9

SHのライバルたちシリーズ これは直接には無関係

「ソーンダイク博士の事件簿」1・2

オースチン・フリーマン 大久保康雄 S55

「思考機械の事件簿」1・2・3

ジャック・フットレル 宇野利泰 S52

「隅の老人の事件簿」

バロネス・オルツィ 深町真理子 S52 H9

「フォーチュン氏の事件簿」

H・C・ベイリー 永井淳 S52

「アブナー伯父の事件簿」

M・D・ポースト

「マックス・カラドスの事件簿」

アーネスト・ブラマ

「マーチン・ヒューイトの事件簿」

アーサー・モリスン 井上一夫 S 5 3

「アピルビイの事件簿」

マイケル・イネス

「ピーター卿の事件簿」

D・セイヤーズ 宇野利泰 S 5 4

「ソーラー・ポンズの事件簿」

オーガスト・ダーレス 吉田誠一 S 5 4

「プリンス・ザレスキーの事件簿」

M・P・シール

[ちくま文庫] -----

「シャーロック・ホームズ全集」10巻別巻1

ベアリング・グルード注 小池滋 H 9 ~ H 1 0

「ビクトリア朝空想科学小説」(体外遊離実験 ドイル)

風間賢二 訳 H 6

「われらロンドン・シャーロキアン」

河村幹夫 H 6

「地獄の読書録」(変形ホームズ物語の佳作)

小林信彦 H 1

「手塚治虫ミステリー傑作集」(13の秘密)

二階堂黎人 編 H 1 2

「妖精の国で」

リチャード・ドイル S 6 3 直接には無関係、コナン・ドイルの伯父の絵本

[中公文庫] -----

「名探偵WHO'S WHO」(きみのホームズ、ぼくのホームズ)

日影丈吉 S 5 8

「ピンカートン探偵社の謎」

久田俊夫 H 1 0

[天山文庫] -----

「ホック氏の異郷の冒険」角川と同一

加納一朗 H 1

[徳間文庫] -----

「ロストワールド2」

田中光二 S 5 8

「華麗なる探偵たち」

赤川次郎 S 6 1

「クレオパトラの葬列」

赤川次郎 H 3

「百年目の同窓会」

赤川次郎 S 6 3

「真夜中の騎士」

赤川次郎 H 5

「さびしい独裁者」

赤川次郎 H 1

「不思議の国のサロメ」

赤川次郎 H 6

「日本ミステリーベスト集成」

中島河太郎

[徳間アニメージュ文庫]

「名探偵ホームズ 青い紅玉」

池田憲章 編 S 5 9

「名探偵ホームズ 海底の財宝」

池田憲章 編 S 5 9

「名探偵ホームズ 小さな依頼人」

町田知之 編 S 5 9

「名探偵ホームズ ソベリン金貨の行方」

編集部 編 S 5 9

「名探偵ホームズ ミセスハドスン人質事件」

ただのかずみ 編 S 5 9

「名探偵ホームズ ドーバーの白い崖」

池田憲章 編 S 5 9

「名探偵ホームズから ウィザード家の秘密」

下村家恵子 S 6 1

[ハヤカワミステリ文庫 ハヤカワ文庫]

「SHの冒険」

コナン・ドイル 大久保康雄 S 5 6

「SHの回想」

コナン・ドイル 大久保康雄 S 5 6

- 「SHの復活」
コナン・ドイル 大久保康雄 S 5 6
- 「SH最後の挨拶」
コナン・ドイル 大久保康雄 S 5 6
- 「SHの事件簿」
コナン・ドイル 大久保康雄 H 3
- 「緋色の研究」
コナン・ドイル 大久保康雄 S 5 8
- 「四つの署名」
コナン・ドイル 大久保康雄 S 5 8
- 「バスカヴィル家の犬」
コナン・ドイル 大久保康雄 S 5 9
- 「恐怖の谷」
コナン・ドイル 大久保康雄 S 6 0
- 「ロスト・ワールド」
コナン・ドイル 加島祥造 H 8
- 「シュロックHの冒険」
フィッシュ 深町真理子 S 5 2
- 「シュロックHの回想」
フィッシュ 深町真理子 S 5 4
- 「SHの新冒険」 上下 上 高橋豊 山本俊子 H 1
グリーンバーグ&ウォー 下 斎藤数衛 坂口玲子 H 1
- 「密の味 H隠退後の事件」
ハード・H・F 田中俊樹 S 5 7
- 「恐怖の研究」
E・クイーン 大庭忠男 S 5 1
- 「霧の殺人鬼」
MJ・トロー 斎藤数衛 S 6 1
- 「クリミアの亡霊」
MJ・トロー 斎藤数衛 S 6 2
- 「SHの災難」 上下
E・クイーン編 中川祐朗 乾信一郎 S 5 9
- 「おしどり探偵」 創元 二人で探偵をと同一
アガサ・クリスティー 橋本福夫 S 5 3
- 「タイムパトロール」
ポール・アンダースン 深町真理子 稲葉明雄 S 5 2
- 「地球人のお荷物」 (バスカビル家の宇宙犬)
P・アンダースン&ディクスン 伊藤典夫 稲葉明雄 S 4 7

「知られざる名探偵物語」（ホームズの隠遁生活はいかに妨げられたか）

J・シモンズ 宇野利泰 S 6 2

「密室大集合」（火星のダイヤモンド P・アンダースン）

エドワード・HOOK編 福島正実 S 5 9

「バルーンタウンの殺人」（亀腹同盟）

松尾由美 H 6

「街中の男」（トンガリ山の穴奇譚 カミ）

シムノン他 長島良三郎 編 S 6 0 フランスミステリー傑作選 1

「SHのライバルたち1」（アンブロザ屋敷強盗事件 レーマン）

押川暁 乾信一 訳 S 5 8

「SHのライバルたち2」（ピグラムの怪事件 ロバート・バー）

乾信一 訳 S 5 8

「SHのライバルたち3」（ホームズ氏原作者問題を解明すバンス他）

秋津知子 訳 S 5 9

「私の選んだ文庫ベスト3」（シャーロック・ホームズ）

丸谷才一 編 H 9

「ミステリーハンドブック」

早川書店編集部 H 3

「ペット探偵シャーロック・ボーンズ」

ジョン・キーン 木村順子 直接には無関係 題名とカットが楽しい

[ハヤカワミステリアスプレス文庫] -----

「SHの恋」

S・J・ナスランド 青木久恵 H 7

[ハルキ文庫] -----

「ドイルの心霊ミステリー」

ドイル 小泉純 H 1 0

[PHP文庫] -----

「イギリス怪奇探訪」（ベイカー街のホームズの部屋）

出口保夫 H 6

[福武文庫] -----

「猫は跳ぶ」（革の漏斗 ドイル）

橋本槇矩 訳 H 2

[扶桑社ミステリー文庫]

「SH氏の素敵な冒険」

N・メイヤー 田中融二 S63

「ロンドンの超能力男」

ダニエル・スタシャクー 日暮雅通 H1

「ウエスト・エンドの恐怖」

N・メイヤー 田中融二

「ホワイトチャペルの恐怖」上下

エドワード・B・ハナ 日暮雅通 H8

「リストオブセブン」 上下

マーク・フロスト 飛田野裕子 H7

「ドイルと黒い塔の六人」上下

マーク・フロスト 飛田野裕子 H10

「ポーをめぐる殺人」

ウィリアム・ヒョーツバーグ 三川基好 H10

「SHのIQクイズ」

イーモン・バトラー&マド・セン・ピリ 北原尚彦 H11

「降霊会殺人事件」

R・ロゴウ 岡真知子 H12

「マーベリー嬢失踪事件」

R・ロゴウ 岡真知子 H11

[双葉文庫]

「ホック氏紫禁城の対決」

加納一朗 H2

「前代未聞の推理小説集」(ある吸血男の犯罪 赤塚不二夫)

赤塚 他 H5

「幻影城」(ドイルの辯駁詩)

江戸川乱歩 H7 日本推理作家協会賞受賞作全集7

「課外授業」(SH氏の素敵な冒険における催眠術の研究)

青木雨彦 H8 日本推理作家協会賞受賞作全集35 講談社文庫と同

「ホック氏の異郷の冒険」

加納一朗 H10 日本推理作家協会賞受賞作全集

「本陣殺人事件」

横溝正史 H7 日本推理作家協会賞受賞作全集1

[二見文庫]

「魔犬の復讐」

[文春文庫] -----

- 「筋肉男のハロウィーン」(寄生体 ドイル)
吉野恵美子 H8
- 「Aサイズ殺人事件」(葉桜の迷路)
阿刀田高 S57
- 「名探偵もどき」(ホームズもどき)
都筑道夫 S58
- 「東西ミステリーベスト100」(SHの冒険)
文春編集部 S61
- 「探偵たちよスパイたちよ」(コナンドイルと鉄道 小池滋 他)
丸谷才一 編 H3
- 「ミステリー・サスペンス洋画ベスト150」(十人のホームズ 十人のワス...)
文春編集部 H3
- 「青春の一冊」
編集部 H2

[文庫クセジュ] -----

- 「探偵小説」
ポワロ・ナルスジャック

[ワニ文庫] -----

- 「世界の名探偵50人」
藤原幸太郎 S59
- 「真夜中のミステリー読本」(SHは麻薬中毒だった)
藤原幸太郎 H2
- 「推理の達人」(角川3分間探偵ゲームと同一)
新保博久 H3
- 「ホームズ対ルパン」
藤原幸太郎 ワニの豆本
- 「ヨーロッパ歴史と謎の名所物語2」
桐生操 H9

[旺文社文庫] -----

- 「SHの回想」
コナン・ドイル 田中純蔵 S54
- 「緋色の研究」

コナン・ドイル 田中純蔵 S 5 0

「バスカヴィル家の犬」

コナン・ドイル 田中純蔵 S 5 2

「豪勇ジェラルルの冒険」

ドイル 秋田元一 S 5 9

「目撃者」下（オスカースレイター事件）

ウィリアム・ラフヘッド 編 大久保博 S 5 6

「夜光死体」（革の漏斗 ドイル）

橋本槇矩 訳 S 5 5

「ルパン対ホームズ」

ルブラン 野内良三 S 5 4

「ルパン対ホームズ」

ルブラン 野内良三 S 6 3 必読名作シリーズ

「ルパンの冒険」（ユダヤのランプ）

ルブラン 野内良三 S 6 3 必読名作シリーズ

「怪盗紳士アルセーヌルパン」

ルブラン 野内良三

「奇岩城」

ルブラン 野内良三

[博文館文庫]

「バスカーヴィル家の犬」

ドイル 延原謙 S 1 4

追加

[青樹社文庫]

「名探偵の憂鬱」（むしゃむしゃ、ごくごく殺人事件）

山前譲 編

[ホームズを入れている児童用文庫]

現行文庫でないものも含む。いわゆる文庫判（A 6）ではない。

岩波少年文庫（岩波書店）

青い鳥文庫（講談社）

春陽堂少年少女文庫（春陽堂）

小学生文庫（日本書房）

偕成社文庫（偕成社）

日本少年文庫（国土社）

雨の日文庫	(麦書房)	世界名作探偵文庫	(ぽぷら社)
明治図書中学生文庫	(明治図書)	フォア文庫	(4社共同)
少年少女講談社文庫	(講談社)	新学社文庫	(新学社)
あかね文庫	(あかね書房)	正進社文庫	(正進社)
小学館名作文庫	(小学館)		

文庫のホームズ

<http://p.booklog.jp/book/67857>

著者 : tontokaimo39

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/tontokaimo39/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/67857>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/67857>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ